

2022年（令和四年）

10月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

9/29～10/5のNYMEX・WTI先物市場は、79.49～87.76ドルの範囲で推移した。

10月6日は、前日のOPECプラス会合における11月の200万b/dの大幅減産合意を受けて、4日続伸した。11月限の終値は前日比0.69ドル高の88.45ドル。

週末7日は、前日までの流れを受けつぎ大幅続伸、90ドルの大台を回復した。また、米国労働省の非農業雇用者統計で予想を上回る雇用者の増加があったことも、値上がり要因となった。11月限の終値は前日比4.19ドル高の92.64ドル。

週明け10日は、中国のサービス業購買担当者景気指数が50を割り込み、中国経済の先行き停滞が懸念されたこと、また、先週の値上がりの反動で利益確定売りも多かったことから、6営業日ぶりに反落した。11月限の終値は前日比1.51ドル安の91.13ドル。

11日は、国際通貨基金(IMF)が経済見通しを発表、2023年の世界経済成長率を2.7%と前回見通しを0.2%下方修正、相次ぐ金利引き上げや中国の感染再拡大を背景に世界的な景気後退懸念が一段と広がり、続落し、90ドルを割り込んだ。ただ、前週のOPECプラスの大幅減産合意が、底値を支えた。11月限の終値は前日比1.78ドル安の89.35ドル。

12日は、今日発表のOPEC月報と米国エネルギー情報局(EIA)短期見通しともに、景気減速等を理由として、2022年と23年の世界石油需要を下方修正、先行き需要停滞感が高まり、3日続落した。為替相場のドル高進行も、原油先物の割高感から、値下がり要因となった。11月限の終値は前日比2.08ドル高の87.27ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11

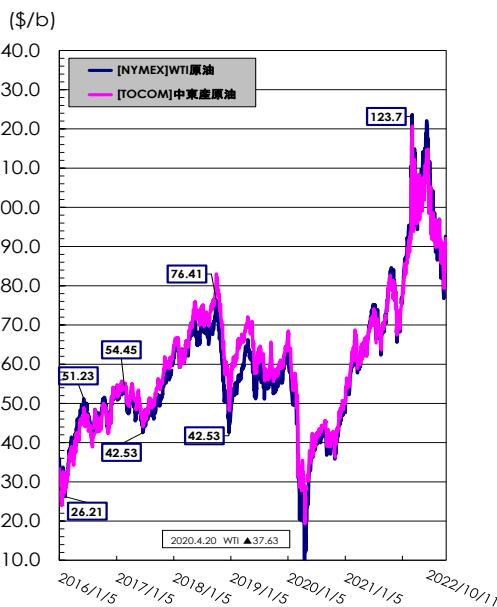
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/2～10/8	2,889	▼ -20	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	〃	77.9	▲ 1.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/8	11,677	▲ 683	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/11	92.13	▲ 8.42	▲ 11.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/10	91.13	▲ 7.50	▲ 10.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	109.61	▼ -2.42	▲ 35.75
	①原油CIF単価 (¥/kl)	〃	96,682	▲ 705	▲ 45,638
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	140.21	▼ -4.00	▼ -30.34
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/11	146.77	▼ -0.88	▼ -33.47

月渡し)は、9月29日～10月5日の間、86.30～90.80ドルの範囲で推移した。10月6日92.20ドル、7日93.40ドル、11日94.80ドル、12日93.60ドルで推移した。

為替は、9月29日～10月5日の間、143.95～144.89円の範囲で推移した。10月6日144.66円、7日144.92円、11日145.77円、12日146.20円で推移した。

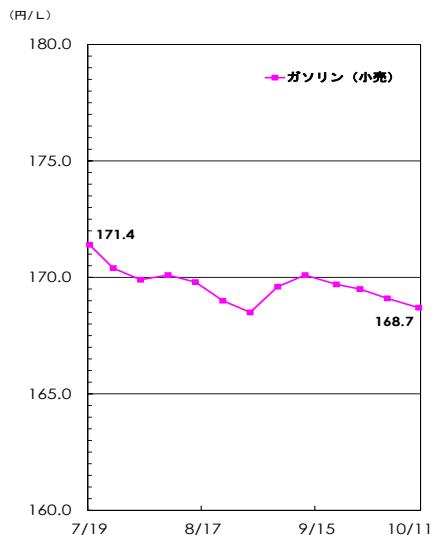
財務省が10月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によるところ、9月中旬の原油輸入平均CIF価格は、96,682円で、前旬比705円高、ドル建て109.61ドルで前旬比2.42ドル安、為替レートは1ドル/140.21円だった。

そのような中で、10月11時時点の価格は、ガソリンが前週比0.4円の値下がり、軽油も同0.3円の値下がり、灯油も3円の値下がり(18kgベース)であった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は168.7円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は36.8円となった。



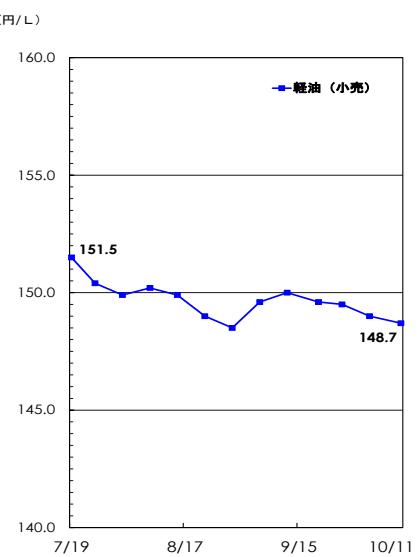
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	10/2 ~ 10/8	916	▲ 153	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	750	▲ 66	▼ -
	輸出	"	63	▼ -12	▼ -
	在庫	10/8	1,615	▲ 104	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/4 ~ 10/10	73.5	▼ -0.5	▲ 1.4
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/4 ~ 10/10	78.2	► 0.0	▲ 6.1
		(TOCOM/中部)	10/7	73.7	▲ 0.3
					▲ 0.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	168.7	▼ -0.4	▲ 6.6

※業転、先物価格は税抜き価格



軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	10/2 ~ 10/8	761	▼ -29	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	630	▲ 36	▲ -
	輸出	"	145	▼ -123	▼ -
	在庫	10/8	1,215	▼ -14	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/4 ~ 10/10	75.1	▼ -0.6	▲ 2.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/4 ~ 10/10	77.4	▲ 0.1	▲ 2.7
		(TOCOM/中部)	10/7	-	-
				-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	148.7	▼ -0.3	▲ 6.8

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	10/2 ~ 10/8	226	▲ 50	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	127	▲ 60	▲ -
	輸出	"	25	▲ 25	▲ -
	在庫	10/8	2,357	▲ 74	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/4 ~ 10/10	76.3	▼ -0.3	▲ 3.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/4 ~ 10/10	81.0	► 0.0	▲ 8.5
		(TOCOM/中部)	10/7	76.8	► 0.0
				-	▲ 1.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	112.1	▼ -0.1	▲ 11.3



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(10月6日～12日)の石油先物市場は、前半、OPECプラスの大幅減産合意を受けて上昇し、週末には92.64ドルを回復したが、週明けから一転、世界的な景気減速懸念から、軟化し、90ドルを割った。10月6日の88.45ドルから12日の87.27ドルと推移した。

10月7日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、1日遅れの13日の発表予定。

EIAによると、10月10日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比13.0セント値上がりの1ガロン3.912ドル(120.6円/㍑)と3週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比38.8セント値上がりの1ガロン5.224ドル(201.1円/㍑)と6週ぶりの値上がりであった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年10月2日～10月8日に休止したトッパー能力は22.5万バレル/日で、前週に対して3.6万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は288.9万kLと、前週に比べ2.0万kL減少。前年に対しては14.4万kLの増加。トッパー稼働率は77.9%と前週に対して1.9ポイントの増加、前年に対しては6.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油で増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/20.1%増、ジェット/7.6%減、灯油/28.3%増、軽油/3.7%減、A重油/10.6%減、C重油/31.4%減。今週のC重油の輸入は0.0万kL(前週比7.3万kL減)。軽油の輸出は14.5万kL(前週比12.3万kL減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、C重油が減少、その他の油種で増加した。前年比では灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は75.0万kL(前週9.5%増)と2週振りに増加した。ジェット4.8万kL(前週41.7%減)、灯油12.7万kL(前週89.5%増)、軽油63.0万kL(前週減)

ベーカーヒューズ社によると、10月7日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比2基減の602基と4週ぶりの減少となつた。

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月8日時点の在庫はガソリン、灯油、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは161.5万kL、前週差10.4万kL増。前年に対しては11.4万kL多い。

灯油は235.7万kL、前週差7.4万kL増。前年に対しては24.1万kL少ない。

軽油は121.5万kL、前週差1.4万kL減。前年に対しては24.7万kL少ない。

A重油は73.5万kL、前週差0.4万kL増。前年に対しては2.3万kL多い。

C重油は179.8万kL、前週差1.6万kL増。前年に対しては11.2万kL少ない。

6.1%増)、A重油17.5万kL(対前週2.2%増)、C重油18.9万kL(対前週28.7%減)。

(単位:千kL)			
	今週 (10/2～10/8)	前週 (9/25～10/1)	前週比
ガソリン	750	684	▲ 66 (10%)
ジェット燃料	48	83	▼ -35 (-42%)
灯油	127	67	▲ 60 (90%)
軽油	630	594	▲ 36 (6%)
A重油	175	171	▲ 4 (2%)
C重油	189	266	▼ -77 (-29%)
合 計	1,919	1,865	▲ 54 (3%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

(単位:千kL)			
	今週 (10/8)	前週 (10/1)	前週比
ガソリン	1,615	1,511	▲ 104 (7%)
ジェット燃料	759	828	▼ -69 (-8%)
灯油	2,357	2,283	▲ 74 (3%)
軽油	1,215	1,229	▼ -14 (-1%)
A重油	735	731	▲ 4 (1%)
C重油	1,798	1,782	▲ 16 (1%)
合 計	8,479	8,364	▲ 115 (1.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月4日～10日のドル建て指標原油価格は、前週比値上がりし、為替レートのわずかな円高がこれをわずかに相殺したが、元売会社の原油コストは、5.5円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額33.8円を加えたコスト上昇額39.3円に、補助金36.8円が支給されることから、次週

(10/13～10/19)の元売会社の実質的な卸価格は2.5円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月4日～10月10日の製品スポット市況は、9月27日～10月3日平均と比べ、先物のガソリン・灯油の横ばい、海上の灯油・先物の軽油の値上がりを除いて、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(10/4～10/10)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/27～10/3)比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(10/4～10/10)に、前週(9/27～10/3)比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油0.5円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.1円の値上がりだった。

(RIM) [陸上ローリー 4地区平均]		(単位:円/㍑)		
		今週 (10/4～10/10)	前週 (9/27～10/3)	前週比
ス	レギュラー	73.5	74.0	▼ -0.5
ボ	ツ	76.3	76.6	▼ -0.3
ッ	ト	75.1	75.7	▼ -0.6
価	格			

(TOCOM) [期近物/終値 [平均]]		(単位:円/㍑)		
		今週 (10/4～10/10)	前週 (9/27～10/3)	前週比
先	レギュラー	78.2	78.2	► 0.0
物	灯油	81.0	81.0	► 0.0
価	格	77.4	77.3	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/4～10/10実績値)		(単位:円/㍑)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.5	► 0.0	▼ -0.2
灯油	▼ -0.3	► 0.0	▼ -0.1
軽油	▼ -0.6	▲ 0.1	▼ -0.2
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安い168.7円、軽油も同0.3円安い148.7円、灯油も18㍑ベースで同3円安い2,017円(1㍑ベースでは同0.1円安い112.1円)。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは7府県、横ばいは5都県、値下がりは35道府県だった。全国最安値は宮城県の160.4円、その次は埼玉県の161.8円であった。他方、最高値は長崎県の182.3円だった。最も値上がりしたのは埼玉県(前週比0.6円高)、横ばいは東京都等5府県、最も値下がりしたのは鳥取県(同1.9円安)だった。

次回調査時(10/17)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位:円/㍑)				
(資源公表) [週動向]	今週 (10/11)	前週 (10/3)	前週比	直近高値
小	レギュラー	168.7	169.1	▼ -0.4
売	灯油	112.1	112.2	▼ -0.1
価	軽油	148.7	149.0	▼ -0.3
格				

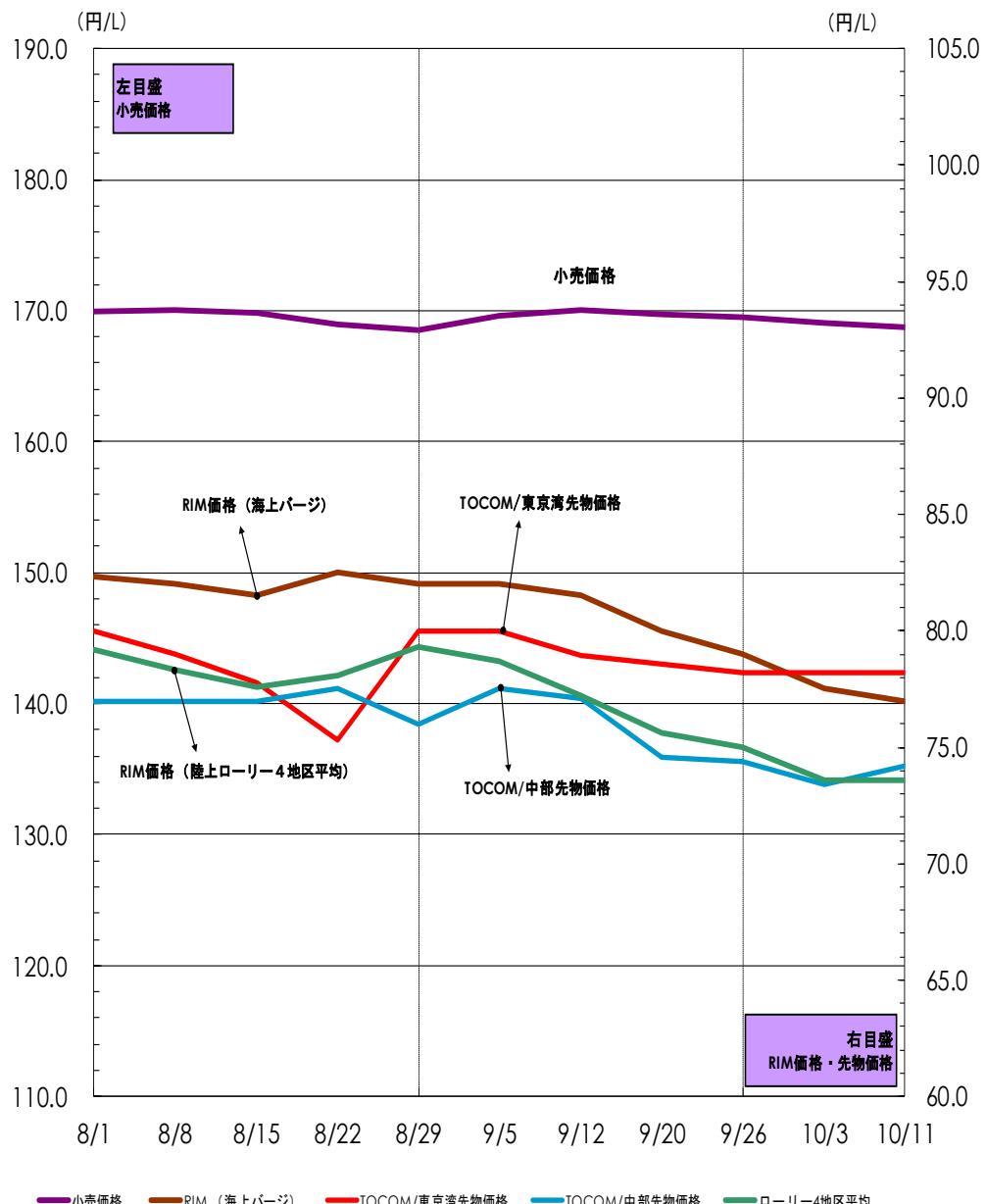
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/8/1 ~ 2022/10/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。

次回（2022第28号）の公表は、10/21（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。